



## 七色の

# 菓子をお礼に

## 歯痛地蔵

三足田の伊勢本街道沿いの小さなお堂には歯痛地蔵と呼ぶ石地蔵が祀られている。医者も庶民から縁遠く、歯の医者などなかった時代、歯痛は神仏に祈るしかなかった。

昔は伊勢本街道だった三足田の道沿いに小さなお堂があり歯痛地蔵が祀られています。江戸時代、歯専門の医者は殆んどいませんでした。相可と平谷に医者があり波多瀬には野呂元丈が医者を継いだ積善堂がありました。丹生八景の漢詩を詠んだ長谷川三慶も医者でした。しかし医者がいない村も多かったのです。歯に限らず、目、足痛、イボ、そのほか怪我や病気になっても、お金のかかる医者にかかれるのは一部の人だけでした。庶民は身近にある野草や作物などで病気を治すしかありません。それでだめならあとは神頼み。お地蔵さまや呪いにたよりました。

兄国の黒田山の裾にはいぼ神さんと呼ぶ自然石の地蔵があり、西山のお寺にもいぼ神があります。歯痛の神さんは相可のお寺に。上出江には歯痛に効く大きな石があるそうです。片野の道端には腹痛に効くという石があります。鍬形(かたがた)の仏足石は足の神さん。乳母咳(ばせき)の時は相可のおんばさん。下出江(しもいずえ)はちちんばさんと呼びます。お堂に穴あき石(あなきいし)が供えてあるのは目や耳の病気でお祈りしたものです。お寺に在(あ)っても、仏像でも「神さん」と呼ぶことが多いのも面白いですね。資格(しかく)などなく、誰でも医者になれる江戸時代でしたが、野呂元丈(のりもと)や本居宣長(もとのりなが)のように京都(きょうと)で勉強(べんきょう)し、故郷(ふるさと)で開業(かいぎょう)する人が多かったようです。



丹生大師  
 大きな門に  
 仁王さん

丹生の神宮寺は弘法大師空海の師の勤操大徳が開き、空海が整備したと伝えられる。女性も参詣できる女人高野、お大師さんと親しまれてきた。

丹生の神宮寺はお大師さんと呼ばれ親しまれています。お大師さんとは弘法大師空海のこと。空海ゆかりのお寺なのでこう呼ばれています。神宮は日本の神様をまつる神社のこと。「神宮寺」って不思議なお寺の名ですね。

日本には昔からの神への信仰がありましたがインドから伝わった仏教は早くから人々の間に広まりました。やがて神社に付属して寺が建てられるなど、両方を合わせた神仏習合という考えが生まれ、僧侶が神社の仕事を執り行うこともありました。神宮寺と丹生神社も隣り合い地続きになっています。空海は中国へ渡り仏教だけ

でなく、溜池の造成技術や鉦山技術など様々な技術、文化を身につけ帰りました。空海が高野山を開いたのはそこに水銀鉦脈があることを知っていたからではないかとも言われ、丹生との縁も水銀があったからだとも言われています。

水銀がとれなくなっただけ、丹生は女人高野、神宮寺の門前町として栄えました。享保元年に再建された12メートルの高さの山門は、平成29年修復がはじまりました。外を睨み一方は阿と叫び、一方は吽と食いしる仁王像と境内を見守る多聞天と持国天の計四体も同時に修復されます。3メートルの巨体、どれも元は鮮やかな色彩だったそうです。



# ぬ 抜けまいり 相可の宿では 草鞋の施行

江戸時代盛んになった伊勢参宮には約60年に一度のおかげ参りや抜け参りがあった。道中、食べ物や草鞋の施行(施し)があり、突然思い立っても無銭で参宮ができた。

江戸時代の人々は自由に旅をすることはできませんでしたが、神社やお寺への参詣や病気を治すために温泉へ行く湯治だけは比較的簡単に許してもらえました。

御師と呼ばれる神官たちが全国を廻り伊勢参宮に誘いました。熊野に「三度」という言葉があるほど、誰もが一生に一度はと夢見る旅でした。

村々には方法は様々ですが積立てをして、何人かが参宮できるという伊勢講という集まりがありました。自分の足だけがたよりの旅は日にちも費用もかかりましたが、伊勢神宮のお札

が突然、空から降って来て我も我もと伊勢参宮にむかうおかげ参り、そして子どもや奉公人が無断で旅立つ抜け参りと呼ばれる現象が起こることもあったのです。

道中各地で柄杓を差し出せば食べ物、草鞋、お金などを施してくれる施行があり、おおよそ60年ごとにおこったおかげ参りには、大勢の人が伊勢を目指し、一日何万人という人が街道を通ったという事です。

伊勢本街道の宿場町相可でも江戸に店をだしている大和屋のような大商人の店がありましたから、盛んに施行がおこなわれました。



# 願いごめ 夜空にひらく みなびのまつり

朝柄あさがらのゆとりの丘で二〇一三年から始まった花火大会。皆みんなで花火はなびから「みなびまつり」と名づけられた。8月開催

「みんなのはなび」から名づけられた「みなび」まつりはゆとりの丘おかで平成25年から行われています。

平成18年の合併がっぺいまでゆとりの丘では夏まつりが行われていました。

ゆとりの丘は五箇篠山城跡せきやふるさと交流館こうりゅうかん、ささゆり苑えんを含む広々とした芝生広場ふひろばのある丘。ふるさと交流館こうりゅうかんには図書館としよかんと郷土資料館きょうどしりょうかんがあります。

ここで何か新しいお祭りまつりをしたいと多気町商工会青年部せいのねんぶの人たちがたちあげたのがこのお祭りです。みんなであげるはなび。一口ひとくち五百円の協賛金きょうさんきんでみんなが作

るまつりです。

5回目の今年ことし(平成29年)は11月5日に行われました。今まで真夏まなげに行われていたが気候きこうの安定あんていする秋あきに変更へんこうされたのです。

中高生のブラスバンドや保育園児えいごのダンスなどの催しまもが夕方から行われ、最後に企業きぎょうや団体の協賛きょうさんも得た二千五百発もの花火が打ち上げられます。

多気地区でも同時期に町商工会主催の「おいな祭まつり」が町民文化会館前の駐車場ちゆうしやばで行われます。たくさんのお祭り「おたコス」も同時開催きかいされています。



# のびのびと走ろう

## パーク天啓で

### 隣りは紅葉の

#### 旧法泉寺

天啓さん（法泉寺）に隣接するのびのびパーク天啓は芝生広場やゲートボール場、遊歩道などがある公園。

相可の南西の端にある法泉寺は天啓さんと呼ばれ親しまれてきました。最初に庵をたてた瑱啓上人に因んで天啓いさんの名がつけましたが天啓と易しい字に書き換えています。

その後、享保元年、梅嶺和尚がここに黄檗宗の寺院法泉寺を建てたのです。

法泉寺の僧には格宗など代々学識に優れた人がいました。江戸時代に中国から伝わったばかりの黄檗宗の僧は新しい中国文化を伝える先進者で学僧も多く、相可周辺の伊勢商人たちに支えられた法泉寺は南勢の黄檗寺院の拠点となったので

す。櫛田川流域の波多瀬の観音寺や車川の観音寺など黄檗寺院ができました。

紅葉の名所として知られた法泉寺の庭園は昭和12年に県の名勝地に、中国風の黄檗型の山門は昭和64年町文化財に指定されています。

昭和51年法泉寺は廃寺になりましたが本堂や鐘楼などが残り、町が整備して一帯を「天啓公園」としました。

隣接するのびのびパーク天啓は芝生広場やゲートボール場、遊歩道などがある公園ですが、地域福祉センター天啓の里やたき児童館、吉田福祉基金会館等があり福祉の拠点にもなっています。